

大阪・ミナミの私設「人生図書館」(06・6281・0555)が6月末で開館4年になる。一般の人から、人生で大きな影響を受けた本をメッセージ付きで寄贈してもらい、読者は本に添付されたメモ用紙に感想を書いて書架に戻す。目標100冊の2倍近くが集まっている。

中でも、小1女兒が「おともだちにやさしくできるようになったよ」と丁寧な文字を添えて寄贈した絵本「いいから いいから」(絵本館)が人気とか。家に雷(鬼)の親子が来ても招き入れるように、何でも許すおじいさんの話に、心温まる感想が相次いで寄せられている。

タレント・作家の遙洋子さんが介護体験を記した「死にゆく者の礼儀」(筑摩書房)には、読者が介護に対する複雑な心境をメモに。「ここにあるのは、誰かと生きてきた本ばかり。何かに悩む読者が背中を押されることもあるようです」と館長の田中希代子さん(52)は話す。

いつの間にか見知らぬ人と心がつながり、共感が生まれる15畳の和室。「力のある文字」からは、電波で届く無料アプリ「LINE(ライン)」とは違ったつながりが生まれている。 【堀川剛護】